



立神峡だより

初春の希望の灯ともす夢灯り

新年明けましておめでとうございます。ここ立神峡でも眩しいくらいの灯りに照らされ輝かしい新年を迎えております。

公園の吊り橋を中心に孟宗竹をくり抜いた竹灯籠が煌びやかな灯りをともしながら新年のスタートに相応しく観光客をお迎えしています。スポットライトに照らされた幻想的な立神峡の岩肌を見ながら、夜の散策に一步足を踏み入れて見てはいかがでしょうか？

また一つ、立神峡の目玉が増えました。今後は、ログハウスなどに宿泊された人や体験で夢灯りを作りたい人たちを対象として里山工房で自由に創作していただき、公園全体に広げたいと思っております。希望される人はお問い合わせ下さい。



▲夜には竹灯籠の灯りが皆さまを迎えます

里山フェスタで里山の魅力を満喫

11月23日に開催いたしました里山フェスタは、八代妙見祭と日程が重なりましたが、来場者が後を絶たず終日大盛況でありました。「里山の恵みを喰らう」と題した食も大好評で約250杯もの丼が見る見る間に無くなり、そのおいしさに満足された様子で来場者の食に対する関心の高さが伺い知れました。この催しを通じて里山の魅力を満喫していただき、立神峡の魅力を知ってますます親しみを感じていただければ幸いです。

また、環境学習の観点から里山フェスタでは、竹馬遊び・火打石体験・巣箱作り・竹細工加工・石絵体験などを実施しました。



▲竹馬遊びに子どもたちがチャレンジ！



▲巣箱作り。「鳥さんは住んでくれるかな？」

孟宗竹を無料で差し上げます

立神峡には竹林がたくさんあり、その間伐に一役買ってもらうために、公園内にある孟宗竹を無料で差し上げます。特に、この便りが届く頃には、「どんどや」の準備で子ども会や地区担当の人は、大変だと思います。美しい里山とこの素晴らしい景観を維持管理するためにも皆さんに竹を無料で間伐していただいたらお互いに大助かりではないでしょうか。



【お問い合わせ先】立神峡公園管理棟

☎ 62-1543 FAX62-1546(8:30~17:30 火曜定休日)

ホームページアドレス

<http://tategami-camp.com>

短歌



清水寺の黄金に映ゆる夕紅葉

まるで浄土を夢見る如し

北野津 宮本 末秋

賜はりしくまモンシールを付けをれば

居合はす少女にねだられ与ふ

吉本 高橋 澄子

我が庭に石路の花ゆらゆらと

今日の小春ぞ夫に見せし

西野津 古崎スエノ

重ねゆく人生一つ気合いだと

老にむち打ち新たな日々

南鹿野 尾崎 京子

純白のペンキの匂ひ漂わせ

地震の亀裂化粧して建つ

西上宮 村内 一誠

季節はずれ画面に写る雪景色

一色まばゆき街を見る

西野津 古崎 栄子

見はるかす枯野の道は遠くして

わが命終は東の間の夢

桜ヶ丘 宮崎敬四郎

俳句

音もなく明けゆく空に万物の
無事を願いて元旦の朝

上鹿島 前村 俊子

清水へもみじ羽織の異人さん

北野津 宮本 末秋

町内の防災訓練冬日和

吉本 高橋 澄子

戸住対抗声援盛ん秋は行く

西野津 古崎スエノ

事無きに感謝祈りて電気消す

南鹿野 尾崎 京子

ふと気づく山茶花散るや立冬かな

西野津 古崎 栄子

大鳥居なおりておがむ御元日

町 香山菊童子

干しふとんくるまる我に暖かく

町 香山セツ子

登山道杖で投げやる冬まむし

西上宮 村内 一誠

初日さす無辺の彼方倅香る

桜ヶ丘 宮崎敬四郎

山茶花や垣根のはしに軍手干し

桜ヶ丘 吉田 照子

初暦知らぬ月日は希望明り

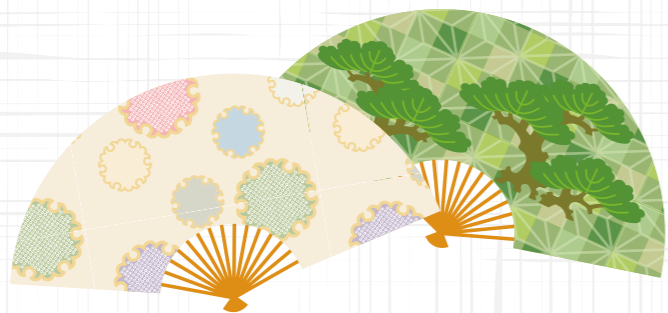
町 田中 澄子

去年今年八十路の春の夢明り

桜ヶ丘 宮崎トシ子

お正月飾る南天赤く映ゆ

上鹿島 前村 俊子



投稿いただきました作品は、短歌・俳句それぞれ一句とします。必要な場合は、ルビを付けてください。また、確認のためお電話することもありますので、連絡先の記入をお願いします。

日本文壇史②

法道寺 本田 花風

話は逸れたが川端も後を追うように1972年(昭和47年)ガス自殺する(享年72歳)。

遺書はなかった。なぜかを追及する文献はあまり見かけないが、彼はノーベル賞を取ったがゆえにその後の作家人生に行き詰りを生じたのだろう。受賞しなければもっと妖美な世界を描き続けていたであろう。文学作品は想像の世界より、自身の生活や体験が基調にある。昨今はメディアにネットと情報の垣塙(るつぽ)が、人が知らないことは「秘密保護法」くらいであろうが古(いにしえ)は知らないことが当たり前であった。著名人が覚醒剤使用などスキャンダラスな事件を起こすと、即座敷牢に入れられる。不倫議員に科学者の捏造などと話題に事欠かない。

ところが現在はいざ知らず、文豪たちの不道徳は評判になっても其れが肥やしになって新たな作品を生み出す。まるで激しく恋をしなければ作品は書けないのかと思うほどスキャンダラスな「事件」が連なる。中原中也から長谷川泰子を奪った小林秀雄、谷崎潤一郎と佐藤春夫の「細君譲渡事件」と話題は尽きず、魍魎(おに)の世界が文学を潤すのである。

(3)へ続く